

調査・設計業務における総合評価 落札方式の運用改善について



総合技術政策研究センター

建設マネジメント技術研究室 室長 笛田 俊治 主任研究官 服部 司 研究官 多田 寛

(キーワード) 総合評価落札方式、品質確保、調査・設計業務

1. 価格点と技術点の得点状況

調査・設計業務においては、2008(平成20)年度に総合評価落札方式(以下、総合評価と呼ぶ。)が本格的に導入され、国土交通省においては381件の業務が総合評価により調達された。そこで、価格と品質による総合的に優れた調達が行われているかという観点から、総合評価の実施状況について分析を行った。

総合評価の評価点の得点をみると技術点の最高得点者が落札した割合は78.1%であり、技術競争が優位な結果となった(図1)。一方、技術点の最高得点者が最低価格で落札している割合は36.6%に達している。また、技術点の配点比率が高くなるにつれて最低価格者が落札した割合は57.7%から15.8%に減少している。

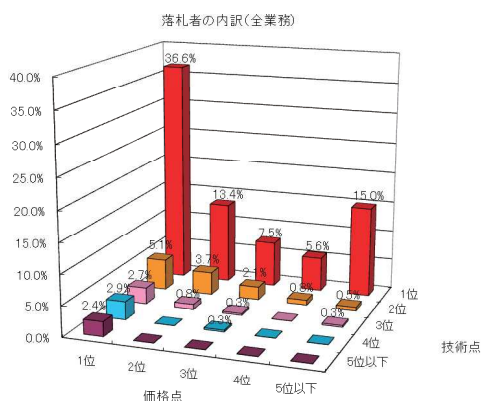


図1 落札者の技術点と価格点の順位

2. 業務成績評定からみた品質向上

総合評価を導入することによって業務成果の品質向上が期待できるかといった観点から、業務成績評定点について他の調達方式との比較を行った(図2)。成績評定の得点率((評定点-65)/35)でみると、総合評価の得点率は27.1%であり、価格

競争よりも1.7ポイント高くなっていることから、総合評価の導入により品質向上の効果が期待できる。また、同得点率は技術点の配点比率が高いほど良くなる傾向があり、配点比率1:3の業務(27.9%)は1:1の業務(26.2%)よりも1.7ポイントと高くなっている。

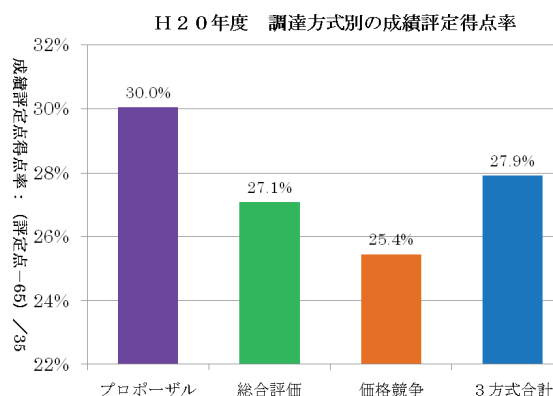


図2 調達方式別の業務成績評定点

3. 低入札対策

総合評価値1位から3位までの応札者の技術点の平均値を比較すると、42.8点~47.9点と5点程度の差にとどまり、低入札により価格点の差で逆転するケースがみられた(配点比率1:1の場合、入札率10%の差は価格点で6点差に相当)。今後、低入札の場合の履行体制確認方法や技術点の差がつきやすい評価方法について検討していく必要がある。

4. 成果の活用

研究成果は、調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会において2008(平成20)年度の総合評価年次報告として取りまとめられ報告された。
http://www.nilim.go.jp/lab/peg/chousasekkei_hinkakukon.html